

# 第5学年〇組 国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時  
学 級：第5学年〇組  
場 所：〇〇市立〇〇小学校5年〇組教室  
授業者：〇〇 〇〇

## 1 単元名（題材名）

物語のおもしろさを解説しよう

（「注文の多い料理店」 東京書籍 新しい国語 五）

## 2 単元（題材）の目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 （知識及び技能（1）ク）
- ◎物語のおもしろさを解説するために、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 （思考力、判断力、表現力等 C読むことエ）
- 物語のおもしろさを解説するために、おもしろさが伝わる叙述を見つけたり、表現の効果を考えたりして、おもしろさを味わいながら読もうとする。 （学びに向かう力、人間性等）

## 3 単元について

### （1） 児童の実態

本学級の子どもたちは、読書が好きな子が多くいる一方で読書を苦手としている子もいる。読書が好きな子は朝の学習や休み時間には本をじっくりと読み、物語の世界を楽しんでいる姿が見られる。おもしろかった本を友だちに勧めたり、物語の内容を友だちと楽しそうに話している場面もある。苦手としている子は、どの本を読んでいいのかわからないと困っていたり、読書の時間に読むことに集中できなかつたりする姿が見られる。

6月には「世界でいちばんやかましい音」を物語文の単元として学習をした。この単元では、物語の構成を捉え、山場での変化を読み取ることをめあてとした。そこで、単元のゴールとして物語の、始め・山場・終わりの3つの場面を扉で表し、1枚のリーフレットとして友だちに紹介する「お話のとびら」という言語活動を行った。教科書教材の「世界でいちばんやかましい音」で場面の読み取りとリーフレットへの書き方を学習し、その後自分が選んだ本で「お話のとびら」をつくった。並行読書の本は、これまでに各自が読んだことのある本だけでなく、学校司書にも協力してもらい、物語の中に山場があり、始めと終わりで変化が起きているものから選ぶこととした。この活動では、どの子も「世界でいちばんやかましい音」の物語の世界を楽しみ、構成を意識して話の展開や変化を理解することができた。また、本を読むことを苦手としている子も「お話のとびら」をつくる際には、自分で選んだ本を何度も読み返し、物語の構成を理解しようと意欲的に取り組むことができた。友だちとのリーフレットの読み合いでは、それぞれの物語の山場での変化を楽しんで読み合うことができた。

しかし、物語の中にある、様々な表現が読み手に与える効果について気付いている児童は少ない。そこで、優れた叙述や暗示性の高い表現などに着目しながら読む力を付けさせたいと考えている。また、その効果について自分の考えをもち、物語のおもしろさを感じるようにしたい。

## (2) 教材について

本教材「注文の多い料理店」は現実の世界と不思議な世界を行き来するファンタジーの構造をもつ物語である。また、題名や料理店の「戸」の言葉に二つの意味が隠されたり、二人の紳士の人物像が豊かに表現されたり、色彩を使った表現が用いられたりして物語の世界に引き込む工夫が多くある。並行読書では、宮沢賢治作品を用意する。多くの本を読んでほしい一方、苦手な子はどの本を読んでいいのかわかってしまうことも予想されるため、『どんぐりと山猫』『ゼロ弾きのゴーシュ』『雪渡り』をおすすめの本として用意する。これらの物語は読者を不思議な世界へ運び込み、人も動物も一緒になって登場する話であり、自分なりのおもしろさを見つやすい作品であると考えられる。宮沢賢治の物語のおもしろさを感じ、もっと読んでみたいと読書が広がることを期待する。

本単元の「物語のおもしろさを解説しよう」は、学習指導要領第5学年及び6学年の〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

「ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。」

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと

「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」

の指導事項を重点的に指導する単元である。

本単元で仕組む言語活動は、「C読むこと」の言語活動例から、「物語を読み、内容を説明する」を具体化する。教科書教材と自分で選んだ本で「登場人物の人物像や場面設定、個々の叙述など様々な表現が読み手に与える効果について考え、それらを通しておもしろさを解説することができる」という目標を設定して活動を進めたい。物語の構成の工夫や人物像だけでなく、たとえや繰り返しの表現など、様々な工夫とその効果について、「おもしろさの視点」をもとに、物語のおもしろさを明らかできるようにしたい。

## (3) 指導について

**並行読書で「読みたい」気持ちを引き出す**

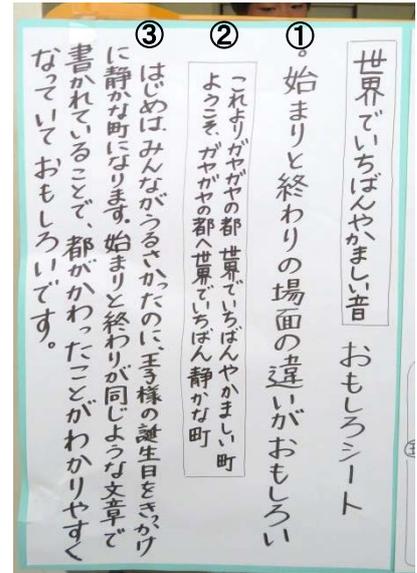
本学級の児童の様子を見ていると宮沢賢治作品を自ら選んで読んでいる子の姿はこれまでほとんどない。そのため、「宮沢賢治の世界」という宮沢賢治作品のコーナーを廊下に設け、子どもにとって身近な本にしたい。また、並行読書マトリクス表を用意する。読んだ本には黄色、読んでおもしろいと感じた本には赤色というように、シールを貼っていく。自分や友だちがどの本におもしろいと感じたのかすぐに分かるようにする。また、学習の中でグループ編成をする際にも、同じ本を読んでいる子などが分かり、利用できると思われる。



おもしろ解説シート

「おもしろ解説シート」の目的は、登場人物の人物像や場面設定、個々の叙述など様々な表現が読み手に与える効果について考え、それらを通しておもしろさを解説することができるようになることである。各自がおもしろいと思ったところを基にシートを作る。①「おもしろさの視点」を基に明らかにして表す。②おもしろさを感じた叙述を書く。③その表現の工夫によりどんな効果があるかを考えて書く。いくつものおもしろさを感じた場合はその数だけシートを作るようにする。

できあがったシートは物語ごとにまとめ、学年で読み合うようにする。また、図書室に置き、他の学年にも紹介したい。



学習のゴールを明確にすることで、主体的に考える

本単元の学びのゴールは自分で選んだ本で「おもしろ解説シート」をまとめることである。これまでに、様々な物語文を国語科の学習や読書で読んできたが、物語のおもしろさをじっくりと考えて、解説をするという活動は初めての学習である。自分が感じたおもしろさ、友だちの感じたおもしろさを伝え合うことで、「物語をもっと読んでみたい」という意欲につなげたい。本単元でたっぷり物語のおもしろさを実感し、そのおもしろさはどのような表現の工夫からくるものであるのかを明らかにしながら考え、それを友だちと伝え合う学習活動は、主体的に取り組むことができると考える。

学習計画を考える

「おもしろ解説シート」をまとめていくために、初発の感想とゴールのモデルを基に学習計画を立てたい。ゴールモデルを既習内容の『世界でいちばんやかましい音』で示し、イメージをしやすくする。共通教材の『注文の多い料理店』を読み、おもしろさをどこに感じたのかについて感想を書き、読みの視点（物語の構成・人物像、表現の工夫・効果）を考え、ゴールにどのように向かっているかを計画する。自分たちの感じた疑問・おもしろさを自分たちの学習計画で解決していくことで、主体的に取り組むことができると考える。

教材文で学んだことを次時に自分で選んだ本での読みに生かす

「注文の多い料理店」と自分で選んだ本の読み取りは交互に学習していく。共通教材で物語の「おもしろさ視点」と「おもしろ解説シート」のまとめ方を学び、次時に自分で選んだ本の読みに生かすようにしたい。共通教材と自分の本で交互に学習をすることで、読むことが苦手な子どもにとっても、自信をもって活動ができると考える。

交流に目的をもたせる

物語のおもしろさを読み取っていく学習活動において、自分の考えに不安があるようなら、もやもやした考えを明確にするという目的をもってグループや全体での交流をする。交流の中で、自分の考えを再認識したり、友だちの新しい考えに触れたりする。それにより、自分の考えを再構築する活動になるようにしたい。交流により、自分の考えが深まっていくことを子ども自身が実感できるようにしたい。

#### (4) 「読み解く力」に関わる目指す児童生徒の姿とその育成のための手立て

<p><b>【「読み解く力」の2つの側面】</b></p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p><b>【「読み解く力」の3つのプロセス】</b></p> <p>①発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す</p> <p>②分析・整理：情報を比較し、関連づけて整理する</p> <p>③理解・再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
---	---

まず、Aの側面「主に文章や図、グラフから読み解き理解する力」の、①のプロセス「必要な情報を確かに取り出す」において、目指す子どもの姿は、物語のおもしろさはどこから感じられるのか、叙述を基に表現の工夫を見つけ、その効果を考えることができる姿である。宮沢賢治作品にはたくさんのおもしろさを生み出す工夫があるので、何となくおもしろいと感じられたものが、どの叙述のどんな工夫から生まれたものであったのかを明らかにすることができるようにしたい。また、共通教材と並行読書材の交互の学習の進め方も個々の並行読書材の読み取りに有効に働くと考える。

次に、Bの側面「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の、②のプロセス「情報を比較し、関連づけて整理する」において、目指す子どもの姿は、友だちとの考えの相違を認め合い、互いの読みのおもしろさを味わうことができる姿である。それぞれがおもしろいと思うところには違いもあり、「そこもおもしろいなあ」と共感できる場所もあれば、「自分はそのように考えない」と思うところもあると考えられる。グループや全体交流での他者とのやりとりから物語のおもしろさに対する考えを深められるようにしたい。

最後に、Bの側面「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の、③のプロセス「自分なりに解決し、知識を再構築する」において、目指す子どもの姿は、友だちとのやりとりから、もう一度自分の考えを深めることができる姿である。友だちとのやりとりの後に、もう一度自分の考えをまとめる学習活動をする。はじめの考えが深まったり、新しい考えが加わったりすることで、自分の考えを再構築させたい。

#### 4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物語のおもしろさを表す比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク)	読むことにおいて、物語のおもしろさを解説するために、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (C読むこと(1)エ)	見通しをもって、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして、目的を把握して「おもしろ解説シート」にまとめようとしている。

## 5 単元の指導と評価の計画（全10時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもしろ解説シート」を作るという単元のゴールイメージをもつ。</li> <li>・「注文の多い料理店」を読み、おもしろいと感じたところはどこかという視点で初発の感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールのイメージがわかりやすいように、既習教材である「世界でいちばんやかましい音」を用いた教師のモデルを提示する。</li> <li>・「おもしろい」の意味を確認する。</li> <li>・「宮沢賢治の世界」コーナーの設置、おすすめの本、並行読書マトリクス表について説明する。</li> <li>・初発の感想から学習計画を立てていくので、学習目標に応じた「おもしろいと感じた」という視点をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールに向かって、見通しをもって、学習に取り組もうとしている。(主)</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想の「みんなのおもしろいと感じたところ」を整理する。「みんなの感想」とモデルを基に学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想を発表し合い、友だちがどこにおもしろさを感じたのか共有できるようにする。</li> <li>・それぞれがおもしろいと思った叙述を付箋に書き、全文シートに貼れるようにする。</li> <li>・単元のゴールのモデルを基に、学習計画を立てるようにする。</li> <li>・共通教材と自分の本を交互に学習することを提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールに向かって、見通しをもって、学習に取り組もうとしている。(主)</li> </ul>
二	3 共通教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「注文の多い料理店」を読み、場面の展開、物語の流れを理解し、あらすじとしてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何が、どうして、どうなったのか、物語の全体を捉え、あらすじを書くようにする。</li> <li>・友だちと交流し、自分の書いたあらすじで物語のおおまかな流れが伝わるか確認したり、お互いに物語の全体像を具体的に想像できているかアドバイスをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物や場面設定をもとに物語の全体像を具体的にイメージしている。 (思判表C(1)エ)</li> </ul>
	4 並行読書材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で選んだ本の場面の展開、物語の流れを理解し、あらすじとしてまとめる。</li> </ul>		

<p>5 ・ 6 共通 教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろさの視点について考える。</li> <li>・全文シートに貼ってある付箋を元に、自分たちが感じたおもしろさはどんなところかを話し合い、「おもしろさの視点」としてまとめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文シートの付箋をもとに、グループを作り、話し合いをする。</li> <li>・おもしろさを明確にし、視点としてまとめるために、児童の考えから出てこなかった視点については、全体交流を通して、気付くようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おもしろさの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面展開   ・人物像</li> <li>・心情の変化   ・繰り返し</li> <li>・たとえ   ・色彩</li> <li>・オノマトペ</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点を明確にすることで、次時からの「おもしろ解説シート」にまとめる学習に生かすようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語のおもしろさから、表現の効果について考えている。 (思判表C(1)エ)</li> <li>・たとえや繰り返し、色彩を使った表現の工夫に気付いている。 (知技(1)ク)</li> </ul>
<p>7 共通 教材 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「注文の多い料理店」を読み、「おもしろさの視点」を基に、おもしろいと思ったところの表現の工夫やその効果について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がおもしろいと感じたところの叙述に注目させる。叙述と前時の「おもしろさの視点」を結び付けて、おもしろさを明らかにし、自分の考えとしてまとめるようにする。</li> <li>・友だちと交流し、考えの相違を確認したり、困っていることについてアドバイスをし合ったりする。</li> <li>・おもしろさについて、もう一度考えもち、「おもしろ解説シート」にまとめるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語のおもしろさを明らかにするために、表現の工夫やその効果を考えている。 (思判表C(1)エ)</li> <li>・たとえや繰り返し、色彩を使った表現の工夫に気付いている。 (知技(1)ク)</li> </ul>
<p>8 並行 読書 材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ本を読み、「おもしろさの視点」を基に、おもしろいと思ったところの表現の工夫やその効果について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がおもしろいと感じたところの叙述に注目させる。叙述と前時の「おもしろさの視点」を結び付けて、おもしろさを明らかにし、自分の考えとしてまとめるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語のおもしろさを明らかにするために、表現の工夫やその効果を考えている。 (思判表C(1)エ)</li> <li>・たとえや繰り返し、色彩を使った表現の工夫に気付いている。</li> </ul>

	9 並行 読書 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が選んだ本を読み、前時とは違う視点で、表現の工夫やその効果について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>友だちと交流し、考えの相違を確認したり、困っていることについてアドバイスを合ったりする。</u></li> <li><u>おもしろさについて、もう一度考えをもち、「おもしろ解説シート」にまとめるようにする。</u></li> </ul>	<p>いる。</p> <p>(知技 (1) ク)</p>
三	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おもしろ解説シート」と宮沢賢治作品を合わせて読み合う。</li> <li>物語のおもしろさについて振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>自分の気付かなかった物語のおもしろさを友だちの「おもしろ解説シート」から見つけ、それぞれの読みの違いを認め合えるようにする。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの考えた物語の構成や表現の効果からわかる物語のおもしろさを理解して、本を読んでいる。(主)</li> </ul>

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

## 6 本時の目標（本時：7／10時間目）

物語のおもしろさを明らかにするために、表現の工夫やその効果を考えることができる。

## 7 本時の評価規準

物語のおもしろさを明らかにするために、表現の工夫やその効果を考えている。

(思判表C読むこと (1) エ)

## 8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
	<p><b>1. 本時のめあて・学習の流れを確認する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返り、本時のめあてと学習活動を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時にまとめた「おもしろさの視点」を掲示し、本時の活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おもしろさの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面展開</li> <li>人物像</li> <li>心情の変化</li> <li>繰り返し</li> <li>たとえ</li> <li>色彩</li> <li>オノマトペ</li> </ul> </div>
	<p>物語のおもしろさを明らかにするために、表現の工夫やその効果を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の「おもしろさの視点」を基に自分の考えをまとめていくことを確認する。</li> </ul> <p><b>2. 自分で考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おもしろいと思った叙述に注目し、どうしておもしろいのか「おもしろさの視点」を基に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の目的と学習計画の確認をして、本時は何を学ぶのか、見通しをもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>叙述を基に、自分がおもしろいと感じたのは<u>どの視点によるものなのかを明確にし、またその効果について自分の考えをもつようにする。</u></li> <li>学習がスムーズに進まない児童には「おもしろ</li> </ul>

	<p><b>3. グループで話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでお互いの考えを交流する。自分が考えた視点が合っているのかという迷いやその効果がこれでよいのかという不安を解決していく。自分や友だちの視点と考えを明確にしていくことで、自分の考えを深める。</li> </ul> <p><b>4. もう一度、自分で考え、「おもしろ解説シート」にまとめる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流で明確になったこと、解決できたことを生かして「おもしろ解説シート」にまとめる。</li> </ul> <p><b>5. 学習を振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてに立ち返り、自分の本時の学びを振り返る。</li> <li>・本時で考えた場面や部分を読む。</li> <li>・次時の学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<p>さの視点」に当てはまるものはないか一緒に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>自分のおもしろいと感じた叙述とその視点が合っているのかという迷いやその効果についての考えに不安があると予想されるので、その解決のために、グループの交流をする。</u></li> <li>・<u>考えたことの報告だけにならないように、おもしろいと感じた叙述と視点が合っているのか、どんな効果があるのかを話し合うようにする。</u></li> </ul> <p>・<u>はじめの自分の考えと友だちの考えを基に、もう一度自分で考えるようにする。</u></p> <p>・自分が感じたおもしろさについて、「おもしろさの視点」をもとに解説シートが書けるようにする。</p> <p>・<u>交流を通して、表現の工夫や効果について自分の考えを深めることができたか確認する。</u></p> <p>・本時の学びを確認しながら、微音読みをする。</p> <p>・次時に自分で選んだ本でおもしろさを明らかにすることを確認し、意欲をもたせる。</p> <p>□<u>物語のおもしろさを明らかにするために、表現の工夫やその効果を考えることができている。</u></p> <p>(思判表C(1)エ)</p>
--	--	---

**※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。**

## 9 授業参観の視点

- ①物語のおもしろさを明らかにするために、「おもしろさの視点」を基に、自分の考えをもつことができていたか。また、その手立てと支援は適切であったか。
- ②友だちとの考えの交流が、自分の考えを再構築することにつながる話合いになっていたか。